ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

シートNO.

ボーリング名	B-2	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 55.3100 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2010-08-25 ～ 2010-08-26	東　経	140 ° 11 ’ 48.8500 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	316.54 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	7.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	316.14	0.40	0.40		表土 (SF)	黒	中ぐらい		上部20cm間は植物根を多量に混入し、非常に緩い。以深、含水・粘性を増す。下方10cm間にφ10mm前後の礫分を混入する。		08/25 0.50
2					シルト質砂礫 (GSM)	暗灰	緩い		礫はφ10～30mmの角礫(岩片)を主体に最大φ60mm程を点在し、GL-1.6m付近ではコア長18cm(推定φ500mm前後)の岩塊をも認める。マトリックスは有機質を帯びる多量の細粒土分と砂分で構成されるが、その含有度合いには大きなバラツキが見られ、特にGL-1.95～2.6m間は細粒土分の卓越区間となり、非常に緩い状態である。		
3	313.59	2.55	2.95		風化岩(砂岩) (WR)	暗褐灰			風化・変質を強く受け、コアは礫混り粘土質砂状を呈す。		
4	312.94	0.65	3.60		砂岩 (S)	灰			コアは概ね新鮮で、長さ5～10cmの棒状～片状を主体に最大コア長26cmを採取する。GL-4.7～5.0m間、頁岩粒子を混入する。亀裂は斜状のヘアークラック(密着性亀裂)がやや多く、網状発達部では礫状コアとなる。風化・変質は割れ目沿いに酸化痕が見られる程度で岩片自体はハンマー打撃で容易には割れない硬度を有し、母岩強度の劣化は認められない。岩盤等級区分は「CL級」。		
5											
6											
7	309.54	3.40	7.00								

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50
1.15	8	7	8	23／30	23
1.45					
2.15	2	2	2	6／30	6
2.45					
3.15	6	6	8	20／30	20
3.45	50／4			50／4	>50
4.00					
4.04	50／0			50／0	>50
5.00					
5.00	50／0			50／0	>50
6.00					
6.00	50／0			50／0	>50
7.00					
7.00					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日
08/25
08/26